

外国語教育推進のための「篠山モデルプラン」の作成とその活用

篠山市立西紀小学校
教諭 岸本 周子

1 取組の内容・方法

(1) はじめに

平成 25 年度から 2 年間、篠山市教育委員会の学力向上ワーキングチームの委員として、授業改善、家庭・地域・小中連携の改善ポイントなどをまとめたリーフレット「指導力パワーアップの手引き」の作成に関わる機会を得た。

外国語教育に関しては、平成 28 度から篠山市外国語教育推進ワーキンググループの委員として、新学習指導要領による外国語教育スタートのための「篠山モデルプラン」の策定にも関わってきた。平成 30 年度には兵庫県教育委員会「小学校外国語教育指導用映像資料」検討委員会委員となり、映像資料の作成など、小学校での外国語教育の導入充実に向けた取組にも関わってきた。

(2) 篠山市モデルプランの作成（市の取り組み、県の取り組み）

2020 年度からの小学校における外国語教育の教科化に向け、平成 28 年度より、篠山市では外国語教育推進ワーキンググループを組織してきた。そこでは、教科化される外国語活動に対し、不安や負担感、抵抗感を感じている本市の小学校教員が、少しでも前向きに、気負うことなく取り組めるよう「篠山モデルプラン」として、資料や教材を整理しまとめた。

モデルプランは、“HOP（平成 29 年度版）”“STEP（平成 30 年度版）”“JUMP（2019 年度版）”と、3 年計画で作成してきた。“HOP（平成 29 年度版）”では、これまでの外国語活動がめざしてきた基本的な考え方を、再確認できる内容となっている。

【HOP（平成 29 年度版）の主な内容】

- ア 小学校段階における外国語活動と中学校の英語教育との違い
- イ 学級担任が外国語活動を指導する意味
- ウ 学級担任・ALT・JTE それぞれの役割分担と連携について
- エ 小学校 6 年間を見通した外国語活動のありかた
- オ 単元リスト、単元の組立方について、活動の広げ方など

“STEP（平成 30 年度版）”では、移行期間 1 年目に取り組むべき内容について、市内の小学校教員が共通理解できるよう、学習指導要領の改訂のポイントや新教材「Let's Try!」「We Can!」についての解説などを盛り込み、作成した。

【STEP（平成 30 年度版）の主な内容】

- ア 学習指導要領の改訂のポイント
- イ 新教材「Let's Try!」「We Can!」についての解説
- ウ 外国語科・外国語活動 年間計画（案）
- エ 外国語活動 活動例
- オ 学習に役立つ資料 など



篠山モデルプラン
（平成 29 年度版）



“JUMP (2019年度版)”では、移行期間2年目に取り組むべき内容について掲載予定である。特に篠山市において市全体で取り組んでいく「音と文字」の指導について、導入の意図や指導のポイント、具体的な学習の進め方などを紹介していく。篠山モデルプラン (平成30年度版)

(3) 「音と文字」の学習について

本校を含め、篠山市では、これまでから、ALTやJTEを積極的に活用した音声中心の授業づくりを推し進めてきている。また、児童が英語を話してみたい！聞いてみたい！と思えるような仕掛けや必然性のある単元型授業の実施にも力を入れてきている。

しかし、児童はもとより、指導する側も「英語の発音が苦手」と感じており、「自信をもって英語を発音したいが…」という点が課題として挙げられていた。

また、本校においては、昨年度までの外国語活動の授業において、「書くこと」に関する活動を積極的には取り入れてこなかった。そのため特に高学年では、4線を正しく使った文字表記や、聞きなじんでいる言葉のなぞり書きや写し書きなど、今後、積極的に「書く活動」取り入れていく必要があった。

そこで、これらの課題に取り組む方法として、「音と文字」の学習法や指導法についての研究や研修を行い、教師一人一人の実践力向上をめざした。

(4) 外国語教育研修の充実

平成29年度には、「小学校英語教育推進リーダー中央研修」に参加し、研修で学んだ「外国語活動に関する指導法」や「最新の情報」などを、担当管轄地域や市内教員への伝達に努めてきた。

さらに、校内研修では、夏季研修を中心に、マイクロティーチングや単元計画の作成など、全ての教員を対象とした体験的な研修プログラムを実施した。

2 取組の成果

(1) 「篠山モデルプラン」の積極的活用

本市では、篠山モデルプランを作成するとともに、その活用方法についてワーキンググループの委員を中心に、平成29年度より市内での教員研修を毎年複数回実施してきた。学級担任となり初めて外国語活動を指導するといった小学校教員向けの「基本研修」、実際に外国語活動の授業指導の経験がある教員向けの「中核研修」といったように、より多くの小学校教員のニーズに合うような市内研修において、委員として参加し、市内への普及に取り組んできた。その結果、学級担任とALTとで行うティームティーチングの取り組み方、単元構成や1時間毎の授業の組み立て方など、具体的な指導方法がわかってよかったという声が多く聞かれるようになった。2020年の外国語科・外国語活動の本格実施に向け、より一層の研修機会の充実を望む声も多い。

(2) 一人一人の児童に寄り添った「音と文字」の学習のあり方について

本校では、3年生以上の外国語活動の授業において「音と文字」の学習を取り入れている。本年度は、講師を招聘した校内研修（講師の模範授業の見学・自身による公開模擬授業・教授法についての校内研修）を実施し、基本的な指導方法を学び、計画的に授業実践を重ねてきた。



特に、

ア 視覚、聴覚、触覚、運動感覚と、多様な感覚

機能を多角的に使用する指導法であるため、特別な支援を必要とする児童も含め、全ての児童にとって学びやすく効果的である。

イ 国語科の「ひらがな指導」の方法や手順と、類似点の多い指導方法であるため、小学校教員にとって抵抗感が少なく、取り組みやすい。

といった指導法の良さが、本校教員らにとっても、苦手意識の高い英語の「音と文字」の指導に前向きに取り組んでいけるようになってきた要因だと考えられる。

「音と文字」の学習を積み重ねてきた結果として、以前に比べ、児童らが文字に興味を示すようになった。特に高学年においては、絵カードに添えられた単語や、普段の生活の中で目にする単語、更には短い英語で書かれた文章も、自発的に「読もう（音声化しよう）」とする姿勢が見られるようになった。と同時に、「これって何？」「〇〇って書いてあるのかな？」と、音声化しようとするだけでなく、言葉の持つ意味にまで、興味の幅を広げている様子が見られるようにもなった。また、書く活動（なぞる・書き写す）においても、同様に積極的に学習に取り組む様子が見られるようになってきた。



(3) 校内研修会の充実による各教職員の指導力向上

小学校英語教育推進リーダー中央研修で学んだことを中心に、地区別研修会及び校内研修会等の場で伝達と模擬授業を行った。

主な伝達内容としては、

- ・スモールステップを意識した、効果的なロールプレイの活用
 - ・ALT や JTE と行う効果的な授業のコーディネート
 - ・絵本や歌の指導法、及び授業での活用の仕方
 - ・新教材を使った授業案の提示
- などである。

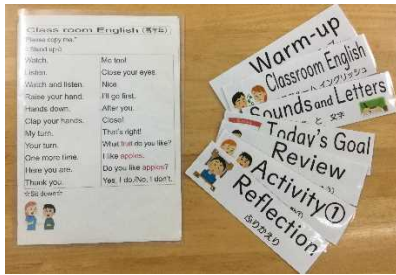


以下は講習参加者及び本校教職員の声である。

- ・絵本の読み聞かせなど、外国語活動の授業のない低学年でも、朝の会などで取り入れていきやすい。自分でもやってみようと思った。
- ・英語の絵本が教材になるのかと思っていましたが、体験してみると活用度が高く、実践してみたいと思った。
- ・マイクロティーチングを初めて体験した。自分のクラスならどうするだろうと、実際の場面を想定して研修を受けることができ、有意義だった。
- ・英語を読むことも書くことも、難しいと思わずに楽しく学習させていきたい。

(4) 外国語活動の授業を充実させていくための校内環境の整備

篠山モデルプランでも提案してある「1時間の授業の流れ」や「クラスルームイングリッシュ」など、校内で揃えて取り組むために教材教具の整備を行った。特に高学年では、日づけの欄や時間割表の活用、アルファベット表の掲示など、学習した内容に日々の生活の中でも自然と触れられるような環境の工夫も行った。



3 課題及び今後の取組の方向

本校では、本年度・来年度と、移行措置期間の設定時数で、外国語活動の学習を行っている。少ない授業時数の中での「音と文字の学習」であるため、児童が無理なく習得できる量にも限りがある。再来年度の3・4年生外国語活動、5・6年生外国語科の完全実施に向け、児童らが負担なく学習を進めていけるよう、計画的に実施していく必要がある。また、指導法についても各教員が自信をもって指導できるよう、来年度もきめ細やかに校内研修を重ねていきたい。

さらには、検討委員の一人として作成に関わった指導用映像資料についても、市内各小学校での効果的な活用を促すため、積極的に推進していく研修会などの取組を行ってきたい。

JTE が授業を終え、職員室でこんなコメントを残していた。「西紀小学校の先生方の授業力、ここ数年でぐんとアップしていますよ。」と。組織的、計画的な授業実践を磨く研修の成果を感じる言葉であり、うれしく思うと同時に、ますます取り組みの重要性を自覚したところである。

